

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 全酪新報 5月1日号 全国酪農協会
第11回繁殖改善で経営向上「牛群検定活用しよう」渡邊 徹 家畜改良アドバイザー
分娩間隔で種付け状況把握 予定日数は条件踏まえ活用
- 2 LIAJニュース3月号 (一社)家畜改良事業団
 - ①新しい牛群検定成績表について(その77) 検定成績表見方 | 検索 
検定成績表の基本ー改善と改良ー
飼養管理改善と遺伝的改良を両立させよう
 - ②牛群検定活用の視点からの飼養管理改善(その3)
栃木県のハウライ千本松牧場における搾乳方法の改善レポート 渡邊徹 アドバイザー
 - ③牛群検定ビッグデータ(その20)
月別授精頭数から、夏季の授精の見送りの実態をお知らせします

こんな農家は牛群検定に加入して改善しましょう！

検定に参加していない酪農家を訪問した際に、次のようなことに気づかれたら、飼養管理に課題がある可能性があります。牛群検定への加入を呼びかけてください。検定を行っていない農家での飼養管理状況を推察する簡単チェックを紹介します。

①乾乳牛が不自然に少ない

経産牛に占める搾乳牛の割合を搾乳牛率と言います。分娩間隔が極めて長かったり、そもそも受胎しない牛が多いというように繁殖に問題がある牛群は、相対的に乾乳牛が少なくなります。乾乳牛が全体の15%未満の場合は改善が必要です。また、夏季の授精がうまくいっていない場合は3～4月に限って乾乳牛が少ないこともあります。

②体格の小さい牛が多い

体格の小さい牛は、初産牛と考えられます。もちろん、農家に聞いてみても良いことです。初産牛が多いということは、事故や病気等で牛を廃用することが多いことや、繁殖成績が悪く、妊娠しないので2産に進めないこと等が考えられます。経産牛に占める初産牛の割合を初産牛比率と言います。長命連産が進んだ良好な農家であれば初産牛比率は35%以下となります。40%以上は改善が必要です。

もし、初産牛比率に問題がないのであれば、2産以上の牛も含め全体で体格が小さいこととなります。この場合は、飼料の品質や設計、与え方に問題があり、ますます牛群検定による改善が必要です。

③子牛がいない

通常どこの農家でも、ホルメス、F1、和牛受精卵の子牛達が多少はいるものです。地域に哺育センターがあって、積極的に利用されているのであれば良いのですが、極端に少なかったり、全くいないのであれば、分娩事故等で子牛を亡くしていることが考えられます。もちろん、上述の①②のように繁殖そのものに問題があることもあります。分娩管理の基本は、分娩予定日の把握です。牛群検定では分娩予定日が毎月表示されるので、見逃すことはありません。

また、今の時期5～6月頃のみ子牛がいない、すなわち分娩がない、という場合は、夏季の授精がうまくいっていないことを意味します。暑熱対策に課題があることとなります。

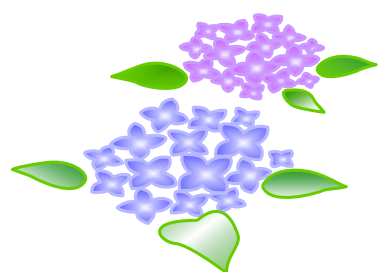
④その他

その他、生乳出荷量、定期検査での体細胞など、いろいろなチェックは可能です。

お試し検定にご参加下さい

これから牛群検定に参加しようと考えている農家のみなさんに朗報です。検定にかかる費用を無料とする乳用牛改良対策事業(通称:お試し検定)をご利用下さい。この事業は牛群検定の普及拡大を目的に、家畜改良事業団が実施するもので、牛群検定の6カ月間の検定経費を補助します。詳しくは検定組合にお問い合わせ下さい。

http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/kentei_info.html



牛群検定！点検シート（その４９ 牛群簡単チェック）

お手許の検定成績を使いながら牛群管理の点検を行います。極簡単なものなので、これを機会に検定員といっしょに確認を行いましょう！今回は前のページで紹介した簡単チェックです。

農家コード 氏名

・検定成績表を参考に牛を観察しましょう！

- ①搾乳牛率85%以下ですか？
Yes No →No 繁殖に課題が考えられます。
- ②初産の頭数比率が40%以上になっていませんか？
Yes No →Yes 病気、事故、繁殖に課題が考えられます。
- ③死産や推定新生子早期死亡が5%をこえていませんか？
Yes No →Yes 分娩管理や哺育に課題が考えられます。

移動
13ヵ月
成績

牛 群

経産牛 搾乳牛 搾乳牛率

検定年月日

20.08.26	78	67	88
20.09.29	78	67	88
20.10.27	77	65	86
20.11.27	81	62	85
20.12.30	85	65	79
21.01.27	88	70	80
21.02.27	91	80	90
21.03.29	93	86	93
21.04.28	93	84	92
21.05.25	93	82	92
21.06.21	98	87	91
21.07.26	102	90	86
21.08.26	99	83	84
平均・計	85.3	76.0	88
前年成績	79.1	69.2	87

拡大

検定成績表（牛群成績）

拡大

検定日牛群構成	未経産	1産	2産	3産	4産	5産以上	経産牛平均	除籍牛平均
年齢	歳 月 1 - 6	歳 月 2 - 5	歳 月 3 - 11	歳 月 4 - 10	歳 月 5 - 11	歳 月 6 - 4	歳 月 3 - 9	歳 月 5 - 0
頭数 (比率)	17 頭 (40%)	40 頭 (33%)	33 頭 (14%)	14 頭 (6%)	6 頭 (6%)	6 頭 (6%)	2.1 頭	2.9 頭

年を通して搾乳牛率が高く、繁殖に課題があります。とりわけ2～6月が高いことから、夏季の繁殖を見直す必要があります。

牛群全般で病気、事故が多いようです。除籍理由等を確認しましょう。

年間子牛生産状況
(2020年11月～2021年10月末 分娩または出生)
(1) 牛群検定における分娩状況

分娩事故で子牛が死亡した場合は「死産」と報告されます。また、分娩後早期に子牛が死亡した場合に「推定新生子牛早期死亡」に計上されます。

母 牛	分娩数	分 娩					流 産 ※3	推 出 生 ※4	推定新生子牛早期死亡 ※5	
		双子以上 (♂♀)	死 産 (産除く)	難 産 ※1	早 産 ※2				頭	%
1 産	42	0.00 (0.00)	2.38 (5.66)	0.00	14.29	0.00		41	0	0.00
2 産	29	6.90 (0.00)	0.00 (0.00)	0.00	14.29	6.90		31		0.00
3 産以上	35	2.86 (2.86)	8.57 (24.46)	0.00	9.09	0.00		33		0.00
計	106	2.83 (0.94)	3.77 (0.94)	0.00	12.50	1.89		105	0	0.00